



北村 千寿 議員

質問 第12回全国和牛能力共進会に向けた対策は

町長 出品者の負担軽減が図られるよう支援を行う

質問 全共出品に向け町はどのように支援を行うのか。

町長 良質な乾草、稲わらの供給、削蹄、手入れ用品の支援や全共専門ヘルパーにより負担軽減を図る。

質問 全共会場で奥出雲町のアピールを。

町長 農業遺産の内容、特産品や観光施設

設等の紹介・PRについて、ブースを管理する県と協議する。

質問 令和4年度予算の和牛振興策は。

町長 農業振興課長 優良雌子牛の保留対策の強化、繁殖育成センターの放牧場再整備農業公社のラップサイレージの増産、新規就農者の募集や研修受け入れなど。



鳥根中央子牛共進会1区・2区とも首席獲得

奥出雲町独自の観光ボランティアガイドについて

質問 奥出雲町経済につながる町独自のボランティアガイド組織の設立を。

町長 観光課長 観光客増加とサービス向上として有効。なり

手の確保等の課題はあるが前向きに検討する。

質問 棚田展望台等に棚田に至った経緯等、わかり易い看板の設置を。



棚田展望台 (大呂・福頼)

横田高校魅力化プロジェクトについて

質問 奥出雲町と高校が目指している子ども像にズレがある。高校とどう連携しているか。連携していたら何故ズレがあるか。

教育長 奥出雲町が目指す子ども像は平成30年度に策定。その際、高校から2名参加いただいた。一方、高校ではその2年前に策定。文言に相違はあるが、ふるさと教育、キャリア

教育、学力育成の3つを柱に連携していると理解している。

再質問 高校は奥出雲町への誇りというより広い視野を持つことをめざしていたが。

教育長 当時、奥出雲町に誇りを持ち、日本に誇り持ち世界へ発展という共通理解があったが、引き継がれているか把握していない。

質問 奥出雲町を深く知る取組みを高校と連携して行うことが必要。

教育長 平成28年度から地域おこし協力隊を配置し地域連携の活動を支援。生徒有志のグループが公民館行事に参加し協働活動が行われている。

要望 活動グループは部活動単位、もっと全体での活動を望む。



田食 道弘 議員

質問 農業存続のためにコメの暴落対策を

町長 農業者への支援を検討している

質問 中四国農政局が発表している中国地方の2年産米生産費調査や鳥根県の元年産米生産費調査とJAの3年産コシヒカリ仮単価と比較すると完全に採算割れしている。このことへの所見は。

町長 3年産米価の大幅な下落は農業経営を維持するには非

常に厳しいものと改めて認識している。雲南農業振興協議会の代表の一人として県知事、県議会議長に要望活動を行った。

質問 すでに全国では地方創生臨時交付金を財源に作付面積や出荷量に応じた独自の補助金交付が行なわれている。持続可能な米作り、町の

農業存続のためにすべての稲作農家、経営体への支援と米価下落補償が必要では。

町長 想定以上の米価下落について農業者への支援は必要と考えている。国の補正予算の内容は不明だが、支援について担当者に検討することを指示している。

福祉灯油を制度化し暖かい冬を

質問 総務省は11月、地方自治体が原油価格高騰の影響を受けている生活困窮者や事業所を支援する原油価格高騰対策に対し、特別交付税措置を講ずると発表している。灯油代の節約で健康被害があつてはならない。生活保護世帯やひとり親、

町長 町独自の支援については考えていない。非課税世帯への10万円給付により一定の支援が得られると思っっている。



令和4年の営農に向けて準備作業中

原発事故避難計画等の説明会開催を

質問 鳥根原発2号機再稼働をめぐって原子力規制委員会の合格判断が出され、30キロ圏内の6つの自治体で住民説明会が開催され、さらに鳥取県では一時避難先に指定された自治体住民にも避難計画について説明会が開催された。本町の住民も原発再稼働に無

関心ではいられない。松江市鳥根地区住民の一時避難先として、住民説明会の開催を求める。

町長 県への住民説明会開催の要請を行う考えはない。町単独での開催予定も現時点ではない。

その他の質問

新たな農作物被害対策への取り組みを、今こそ18歳までの医療費無料化を。

